

**製品名: サイクリン D1 (10Z18) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe09589**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:100-1:200,IP 1:20-1:50
分子量	34kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CCND1
別名	CCND1;BCL1; D11S287E; PRAD1; U21B31; Cyclin D1;
遺伝子 ID	595.0
SwissProt ID	P24385
免疫原	ヒトサイクリン D1 の合成ペプチド

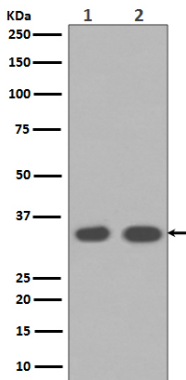
**背景**

RB1 のリン酸化は、RB/E2F 複合体から転写因子 E2F を解離させ、G1 期の進行を担う E2F 標的遺伝子の転写を可能にする。G1 期初期には RB1 を低リン酸化する。サイクリン D-CDK4 複合体は、様々な細胞分裂促進および抗細胞分裂促進シグナルの主要な統合因子である。サイクリン D1-CDK4 (DC) 複合体の調節成分として、RB1 を含む網膜芽細胞腫 (RB) タンパク質ファミリーのメンバーをリン酸化・阻害し、G(1)/S 期移行中の細胞周期を制御する (PubMed:1833066、PubMed:1827756、PubMed:8114739、PubMed:8302605、PubMed:19412162、PubMed:33854235) 。RB1 のリン酸化は、RB/E2F 複合体から転写因子 E2F の解離と、それに続く G(1)期の進行を担う E2F 標的遺伝子の転写を可能にする (PubMed:1833066、PubMed:1827756、PubMed:8114739、PubMed:8302605、PubMed:19412162) 。G(1)期初期には RB1 を低リン酸化する (PubMed:1833066、PubMed:1827756、PubMed:8114739、PubMed:8302605、PubMed:19412162) 。サイクリン D-CDK4 複合体は、様々な分裂促進性シグナルおよび分裂抑制性シグナルの主要な統合因子である (PubMed:1833066、PubMed:1827756、PubMed:8302605、PubMed:19412162) 。また、SMAD3 の基質でもあり、細胞周期依存的に SMAD3 をリン酸化して転写活性を抑制する (PubMed:15241418) 。サイクリン D1/CDK4/CDKN1B 三元複合体の構成要素であり、サイクリン D-CDK4 複合体の核への移行および活性に必要である (PubMed:9106657) 。細胞周期非依存的に、NEUROD1 および INS プロモーターにおいて INSM1 と共に転写コリプレッサー活性を示す (PubMed:16569215、PubMed:18417529) 。

## 研究分野

細胞生物学

## 画像データ



(1) MCF-7 細胞溶解物、(2) LnCaP 細胞溶解物におけるサイクリン D1 発現のウエスタンブロット解析。